

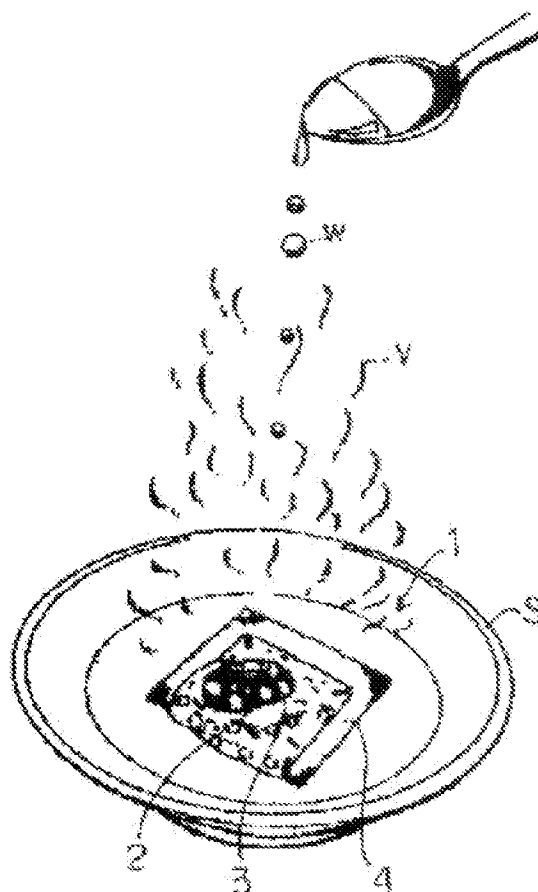
AROMATIC

Publication number: JP2000051340
Publication date: 2000-02-22
Inventor: WADA SHINJI
Applicant: DAIICHI SHOJI KK
Classification:
- international: A61L9/02; A61L9/015; (IPC1-7): A61L9/02
- european:
Application number: JP19980228184 19980812
Priority number(s): JP19980228184 19980812

[Report a data error here](#)

Abstract of JP2000051340

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain an aromatic which not only gives a fragrance but is enjoyable to see and safe with no possibility of a fire by mixing a component generating heat by reacting with water with an aromatic source containing refined oil which becomes aromatic component, whereby the refined oil of the aromatic source is evaporated by heat generated by contact of the component generating heat with water. **SOLUTION:** The granular material 2 of a component generating heat by interaction with water and the granular material (aromatic source) 3 impregnated with refined oil which becomes aromatic component are stored in a bag 4 having pores to form an aromatic 1. At this time, as the granular material 2 of heat generating component, quicklime (CaO) or the like is used. As the granular material 3 of aromatic component used, the granular material of calcium silicate is impregnated with refined oil. In use, water (w) is dropped on the aromatic 1 placed on a container S such as a tray or the like, and the water (w) permeating into the bag 4 is brought into contact with the granular material 2 to cause the granular material 2 to generate heat, thereby evaporizing refined oil. The vaporized aromatic component is diffused with the vapor (v) to the outside through the pores of the bag 4, and the aroma can be visually enjoyed.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-51340
(P2000-51340A)

(43)公開日 平成12年2月22日(2000.2.22)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	キーワード(参考)
A 6 1 L	9/02	A 6 1 L 9/02	4 C 0 8 0

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 11 頁)

(21)出願番号 特願平10-228184

(22)出願日 平成10年8月12日(1998.8.12)

(71)出願人 594046846

第一商事株式会社

大阪市住吉区长居東3丁目8番28号

(72)発明者 和田 信二

大阪市住吉区长居東3丁目8番28号 第一
商事株式会社内

(74)代理人 10008/664

弁理士 中井 宏行

Fターム(参考) 4C080 AA04 BB03 BH09 JJ04 KK03

KK04 LL09 LL10 MM01 NN01

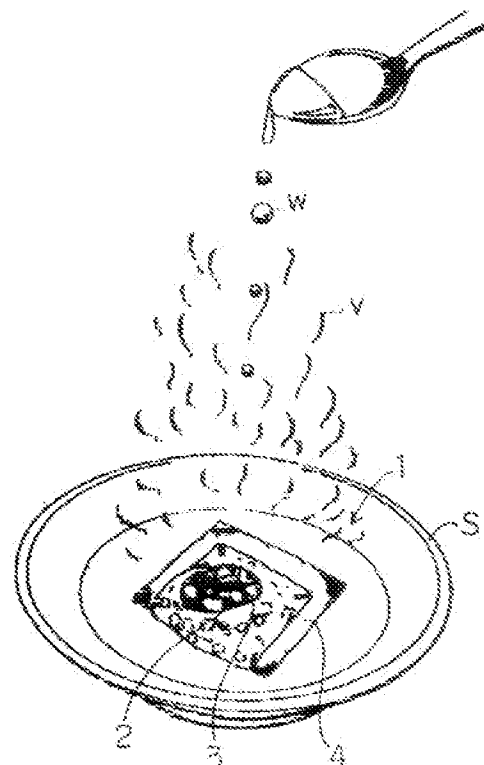
NN09 NN14 NN23 NN24 QQ03

(54)【発明の名称】 芳香剤

(57)【要約】

【課題】火災等の心配がなく安全性に優れ、且つ、香り以外の点でも楽しめることができるようにした芳香剤を提供する。

【解決手段】香成分となる精油を含浸させた粒状物3・・・と、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・とを、気孔を有する袋体4内に収容した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】水と反応して発熱する成分と、香成分となる精油を含む香料源とを混合し、前記水と反応して発熱する成分を水に接触させることによって発生する熱により、前記香料源中に含まれる香成分となる精油を気化させるようにした、芳香剤。

【請求項2】前記香料源が、ケイ酸カルシウム中に、香成分となる精油を含浸させたものであることを特徴とする、請求項1に記載の芳香剤。

【請求項3】水と反応して発泡する成分を、更に含む、請求項1又は請求項2に記載の芳香剤。

【請求項4】前記水と反応して発泡する成分が、炭酸塩と、有機酸とを含むことを特徴とする、請求項3に記載の芳香剤。

【請求項5】香成分となる精油を含浸させた粒状物と、水と反応して発熱する成分の粒状物との混合物を、気孔を有する袋体内に収容した、芳香剤。

【請求項6】香成分となる精油と、水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤と、水と反応して発熱する成分の粒状物とを、気孔を有する袋体内に収容した、芳香剤。

【請求項7】水を水密な袋体内に収容し、前記水密な袋体の周囲に、香成分となる精油を含浸させた粒状物と、水と反応して発熱する成分の粒状物との混合物を配置し、前記水を収容した水密な袋体、及び前記香成分となる精油を含浸させた粒状物と、前記水と反応して発熱する成分の粒状物との混合物を、気孔を有する袋体内に収容した、芳香剤。

【請求項8】水を水密な袋体内に収容し、前記水密な袋体の周囲に、香成分となる精油と、水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤と、

水と反応して発熱する成分の粒状物とを配置し、前記水を収容した水密な袋体、前記香成分となる精油と水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤、及び前記水と反応して発熱する成分の粒状物を、気孔を有する袋体内に収容した、芳香剤。

【請求項9】香成分となる精油と水とを水密な袋体内に収容し、前記水密な袋体の周囲に、水と反応して発熱する成分の粒状物を配置し、前記香成分となる精油と水とを収容した水密な袋体、及び前記水と反応して発熱する成分の粒状物を、気孔を有する袋体内に収容した、芳香剤。

【請求項10】香成分となる精油と水とを水密な袋体内に収容し、前記水密な袋体の周囲に、水と反応して発熱する成分の粒状物と、水と反応して発泡する錠剤とを配置し、前記香成分となる精油と水とを収容した水密な袋体、前

記水と反応して発熱する成分の粒状物、及び前記水と反応して発泡する錠剤を、気孔を有する袋体内に収容した、芳香剤。

【請求項11】前記水と反応して発熱する成分が、生石灰であることを特徴とする、請求項1～10のいずれかに記載の芳香剤。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、芳香剤に関し、特に、火災等の心配がなく安全性に優れ、且つ、香り以外の点でも楽しめることができるようにした芳香剤に関する。

【0002】

【従来の技術】近時、ハーブの香りが、人間の精神活動に良い影響を及ぼすことが認知され、アロマブームが起こっている。そのようなアロマブームに伴って、様々なアロマ関連商品が提案・出現している。

【0003】中でも、火を灯すと、香りができるようにしたアロマキャンドルや、アロマ線香は、エアゾールタイプのもや、香料成分を含ませたゼリー状物を用いた容器入り芳香剤に比べ、火を付けるといった楽しみや、燃えている火や発生する煙を視覚的に楽しめるといった、エアゾールタイプのもや、容器入りの芳香剤のようなトイレタリー商品には無い、嗜好品的な楽しみがあるので、アロマ関連商品の人気商品になっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、アロマキャンドルやアロマ線香は、香りを出すために、火を使うため、火の消し忘れや、火が、例えば、カーテンに燃え移ること等によって火災が発生する原因になるという問題がある。本発明は、以上のような問題を解決するためになされたものであって、単に、香りを出すだけでなく、視覚や聴覚によっても楽しめ、且つ、火災の心配が一切無い、安全性に優れた芳香剤を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の芳香剤は、水と反応して発熱する成分と、香成分となる精油を含む香料源とを混合し、前記水と反応して発熱する成分を水に接触させることによって発生する熱により、前記香料源中に含まれる香成分となる精油を気化させるようにした。

【0006】ここで、香成分となる精油としては、種々のものを用いることができ、特に限定されることは無いが、いわゆる、アロマセラピーに用いられる精油を好適に用いることができ、これらの精油は、単一種の精油であっても、複数種の精油をブレンドしたものであっても良い。具体的には、香成分となる精油としては、例えば、アニス油、アミリス油、アンジェリカ油、安息香油、イモテール油、イランイラン油、エレミ油、オリガ

ナム油、オレンジ油、カモミール油、カユブテ油、カルダモン油、ガルバナム油、カンファール油、キャラウエイ油、キャロットシード油、グアヤックウッド油、クミン油、クラリセージ油、グレープフルーツ油、クローブ油、コリアンダー油、サイプレス油、サンダルウッド油、サントリナ油、シダーウッド油、シトロネラ油、シナモン油、ジャスミン油、ジュニパー油、ジンジャー油、スターアニス油、スパイクラベンダー油、スベアミント油、セージ油、ゼラニウム油、セロリ油、タイム油、タジェティーズ油、タラゴン油、タンジェリン油、ティートリー油、ディル油、テレピン油、ナツメグ油、ニアウリ油、乳香油、ネロリ油、バイオレット油、パイン油、バジル油、バセリ油、バーチ油、パチュリー油、バーベナ油、バラ油、バルマローザ油、ヒソップ油、ビメント油、ファール油、ファンネル油、プチグレン油、ブラックバップー油、ベチバー油、ペパーミント油、ベルガモット油、ボダイジュ花油、マージョラム油、マートル油、マンダリン油、メリッサ油、没薬油、ヤロウ油、ユーカリ油、ライム油、ラバンジン油、ラベンダー油、リツェアクベバ油、レモン油、レモングラス油、ローズウッド油、ローズマリー油及びローレル油等を1種又は少なくとも2種をブレンドしたものや、これらにスクアールを少量添加したもの等を挙げることができる。

【0007】この芳香剤では、香料源中に含まれる香成分となる精油を、水と反応して発熱する成分を水に接触させることによって発生する熱を用いて気化するようにしているため、火災の虞れが一切無く、安全性に極めて優れている。また、水と反応して発熱する成分と、香成分となる精油を含む香料源とを別体に設けるのではなく、これらを混合物としている。これにより、この芳香剤に水を接触させると、香料源が、その周囲に存在する、水と反応して発熱する成分が水と接触することで発生する熱により万遍なく暖められ、香料源中の精油が気化するので、気化した精油の香りを楽しむことができる。

【0008】且つ、水と反応して発熱する成分が、水と接触することで発生する熱により、水蒸気が発生するので、この芳香剤では、単に、香りを楽しむことができるだけでなく、この水蒸気を煙に見立てて、視覚的に楽しむことができる。請求項2に記載の芳香剤は、香料源として好ましいものを提案するものである。

【0009】香料源は、保存や運搬の際の便宜を考慮した場合には、固形剤にされていることが好ましい。液体である精油を固形剤にするには、精油を担持できるものであれば、その種類が特に限定されることはなく、デンプン（バレイショ、コムギ、トウモロコシ等）、糖類（乳糖、白糖、ブドウ糖、マンニトール等）、無機物（炭酸カルシウム、硫酸カルシウム、炭酸水素ナトリウム、塩化ナトリウム等）、結晶セルロース、植物末（カンゾウ末、ゲンチアナ末等）等の、一般に、固形製材用

の賦形剤であれば、使用可能である。

【0010】請求項2に記載の芳香剤は、請求項1に記載の芳香剤の香料源が、ケイ酸カルシウム中に、香成分となる精油を含浸させたものであることを特徴とする。ここに、ケイ酸カルシウムを用いるのは、ケイ酸カルシウムは、安全性に優れ且つ入手しやすい材料だからである。請求項3に記載の芳香剤は、香りを楽しむことに加え、更に聴覚的な楽しみをも付与した芳香剤を提案するもので、請求項1又は請求項2に記載の芳香剤が、水と反応して発泡する成分を、更に含むことを特徴としている。

【0011】この芳香剤では、水と反応して発泡する成分を、更に含ませているので、単に、香りを楽しむことができるだけでなく、水と反応して発泡する成分が水と接触することで、発泡した泡が弾ける際に発生する音を聴覚的に楽しむことができる。請求項4に記載の芳香剤は、請求項3に記載の芳香剤で用いる、水と反応して発泡する成分を具体的に提案するもので、水と反応して発泡する成分が、炭酸塩と、有機酸とを含むことを特徴とする。

【0012】ここに、炭酸塩としては、水に溶かした場合に、有機酸との共存下で、炭酸ガス（ CO_2 ）を発生するものであれば、特に限定されることはなく、そのような炭酸塩としては、例えば、重曹（炭酸水素ナトリウム）、炭酸ナトリウム、セスキ炭酸ナトリウム等を挙げることができる。また、有機酸としては、炭酸塩の発泡を促進させるものであれば、特に限定されることはなく、そのような有機酸としては、例えば、クエン酸、リンゴ酸、コハク酸、フマル酸、酒石酸及びアジピン酸等を挙げることができる。

【0013】このような有機酸は、1種類であっても、2種以上の混合物であってもよい。この芳香剤では、水と反応して発泡する成分中に、炭酸塩の分解を促進する有機酸を配合しているので、芳香剤を水に接触させた際に、炭酸塩がスムーズに分解し、 CO_2 の泡が発生する。請求項5又は請求項6に記載の芳香剤は、従来のトイレタリー商品とは異なる商品形態の例を提案するものである。

【0014】即ち、請求項5に記載の芳香剤は、香成分となる精油を含浸させた粒状物と、水と反応して発熱する成分の粒状物との混合物を、気孔を有する袋体内に収容した。ここに、本明細書で用いる用語「気孔を有する袋体」は、袋体に設けた気孔を通じて、水や気化した精油が袋体を通過できるようになっているものであれば、特に限定されることはなく、例えば、繊維と繊維との間に隙間があるものであれば、織布であっても、不織布であってもよく、合成樹脂に複数の孔を開けたものであってもよいが、製造コストが安価であることや廃棄の際の便宜性を考慮した場合は、気孔を有する紙であってもよい。

【0015】この芳香剤は、水を垂らすと、水は、袋体の気孔を通じて袋体内に侵入する。袋体内に侵入した水が、水と反応して発熱する成分に接触し、これにより、水と反応して発熱する成分が発熱する。次いで、香成分となる精油を含浸させた粒状物がその周りに存在している、水と反応して発熱する成分の熱により暖められ、粒状物中に含浸させていた香成分となる精油が気化する。

【0016】水と反応して発熱する成分が水と接触することで発熱した熱により、袋体内に侵入した水の一部は水蒸気となる。そして、この水蒸気と、気化した精油とが、袋体の気孔を通じて、大気中に放出される。これにより、気化した精油の香りを楽しむことができると同時に、水蒸気を煙に見立てて、視覚的に楽しむことができる。

【0017】この芳香剤では、商品としての最終形態を、トイレタリー製品として既にありふれている錠剤やゼリー状物質中に香成分を分散させたものではなく、気孔を有する袋体内に、香成分となる精油を含浸させた粒状物と、水と反応して発熱する成分の粒状物との混合物を収容しているため、従来のトイレタリー製品とは異なる印象を顧客に与えることができる。

【0018】また、請求項6に記載の芳香剤は、香成分となる精油と水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤と、水と反応して発熱する成分の粒状物とを、気孔を有する袋体内に収容した。この芳香剤でも、商品としての最終形態を、トイレタリー製品として既にありふれている錠剤やゼリー状物質中に香成分を分散させたものではなく、気孔を有する袋体内に、香成分となる精油と、水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤と、水と反応して発熱する成分の粒状物とを収容するという斬新な形態にしているため、従来のトイレタリー製品とは異なる印象を顧客に与えることができる。

【0019】また、この芳香剤に水を垂らすと、単に、香りが発生したり、水蒸気が発生したりするだけでなく、水と反応して発泡する成分が水と接触することで、発泡した泡が弾ける際に発生する音や、錠剤が崩壊する際の音が発生するので、香りを奥感的に楽しんだり、発生する水蒸気を煙に見立てて視覚的に楽しんだりすることができるのみならず、発泡した泡が弾ける際に発生する音や、錠剤が崩壊する際の音等を聴覚的に楽しむことができる。

【0020】また、この芳香剤では、香成分となる精油と、水と反応して発泡する成分との混合物を錠剤化しているため、錠剤が水に接触していない状態では、香りが発生し難く、錠剤が崩壊するとともに、香り成分となる精油が錠剤の表面に現れる。これにより、この芳香剤は、使用しない時には、あまり香りがでず、水に接触させると香りが強くなるという特徴を有するので、好きなときに好きな香りを楽しめるという効果がある。

【0021】請求項7～10に記載の芳香剤は、香りを

楽しむ際に、わざわざ、水を用意する必要が無い芳香剤を提案する。即ち、請求項7に記載の芳香剤は、水を水密な袋体内に収容し、水密な袋体の周囲に、香成分となる精油を含浸させた粒状物と、水と反応して発熱する成分の粒状物とを配置し、水を収容した水密な袋体、香成分となる精油を含浸させた粒状物及び水と反応して発熱する成分の粒状物を気孔を有する袋体内に収容した。

【0022】この芳香剤では、香りを楽しみたいときには、水密な袋体に孔を開けるだけでよいので、一層容易に、香りや、水蒸気を楽しむことができる。また、請求項8に記載の芳香剤は、水を水密な袋体内に収容し、水密な袋体の周囲に、香成分となる精油と水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤と、水と反応して発熱する成分の粒状物とを配置し、水を収容した水密な袋体、香成分となる精油と水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤、及び水と反応して発熱する成分の粒状物を気孔を有する袋体内に収容した。

【0023】この芳香剤でも、香りを楽しみたいときには、水密な袋体に孔を開ければよいので、一層容易に、香りや水蒸気を楽しむことができると同時に、水密な袋体から漏れ出した水が、錠剤に接触することで、錠剤が発泡し、崩壊するので、発泡した泡が弾ける際に発生する音や、錠剤が崩壊する際の音を聴覚的に楽しむことができる。

【0024】また、この芳香剤では、香成分となる精油と、水と反応して発泡する成分との混合物を錠剤化しているため、錠剤が水に接触していない状態では、香りが発生し難く、錠剤が崩壊するとともに、香り成分となる精油が錠剤の表面に現れる。これにより、この芳香剤は、使用しない時には、あまり香りがでず、水に接触させると香りが強くなるという特徴を有するので、好きなときに好きな香りを楽しめるという効果がある。

【0025】また、請求項9に記載の芳香剤は、香成分となる精油と水とを水密な袋体内に収容し、水密な袋体の周囲に、水と反応して発熱する成分の粒状物を配置し、水と反応して発熱する成分の粒状物を気孔を有する袋体内に収容した。この芳香剤では、水密な袋体内に、香成分となる精油と水とを収容している。これにより、この芳香剤では、香りを楽しみたい際には、水密な袋体に孔を開けるだけで、水密な袋体内に収容されていた水が、水と反応して発熱する成分に接触し、これにより生じた熱により、水密な袋体内に収容されていた香成分となる精油が気化するので、容易且つ簡単に、香りを奥感的に楽しむことができる。

【0026】また、水密な袋体内に収容され、孔から漏れ出した水の一部が、水と反応して発熱する成分の熱をもらって水蒸気となるので、この水蒸気を煙に見立てて、視覚的に楽しむことができる。更に、水密な袋体内に、香成分となる精油と水とを収容しているため、水密な袋体に孔を開けない限り、香りが発生することが無い。

【0027】これにより、この芳香剤は、使用しない時には、香りが一切でず、水に接触させると香りが強くなるという特徴を有する。芳香剤を商品化できるという効果がある。また、請求項10に記載の芳香剤は、香成分となる精油と水とを水密な袋体内に収容し、水密な袋体の周囲に、水と反応して発熱する成分の粒状物と、水と反応して発泡する錠剤とを配置し、香成分となる精油と水とを収容した水密な袋体、前記水と反応して発熱する成分の粒状物、及び前記水と反応して発泡する錠剤を気孔を有する袋体内に収容した。

【0028】この芳香剤でも、水密な袋体内に、香成分となる精油と水とを収容している。これにより、この芳香剤では、香りを楽みたい際には、水密な袋体に孔を開けるだけで、水密な袋体内に収容されていた水が、水と反応して発熱する成分に接触し、これにより生じた熱により、水密な袋体内に収容されていた香成分となる精油が気化する。容易且つ簡単に、香りを楽しむことができる。

【0029】また、水密な袋体内に収容され、孔から漏れ出た水の一部が、水と反応して発熱する成分の熱をもらって水蒸気となるので、この水蒸気を煙に見立てて、視覚的に楽しむことができる。更に、水密な袋体内に、香成分となる精油と水とを収容しているので、水密な袋体に孔を開けない限り、香りが発生することが無い。

【0030】これにより、この芳香剤は、使用しない時には、香りが一切でず、水に接触させると香りが強くなるという特徴を有する。芳香剤を商品化できるという効果がある。また、水密な袋体の周囲に、水と反応して発泡する錠剤を配置しているので、水密な袋体に孔を開けることで、孔から漏れ出た水が、錠剤に接触して、泡は発生し、この泡が弾ける際の音や錠剤が崩壊する際の音を聴覚的に楽しむことができる。

【0031】請求項11に記載の芳香剤では、水と反応して発熱する成分として、固形で且つ安全性が高い生石灰を用いているので、この芳香剤は、取扱いの利便性に優れ、且つ高い安全性を有する固形製剤として市場に供することができる。

【0032】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照しながら、本発明に係る芳香剤の好ましい例について、更に詳しく説明する。

（発明の実施の形態1）図1は、本発明に係る芳香剤の一例を概略的に説明する一部切欠き斜視図である。

【0033】この芳香剤1は、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・と、香成分となる精油を含浸させた粒状物（香料源）3・・・とが、気孔を有する袋体4内に収容されて構成されている。この例では、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・として、生石灰（CaO）の粒状物を用いている。

【0034】また、香成分となる精油を含浸させた粒状

物3・・・として、ケイ酸カルシウムの粒状物中に、香成分となる精油を含浸させたものを用いている。次に、この芳香剤1を製造する方法について説明する。図2及び図3は、芳香剤1の製造工程の一例を概略的に示す工程図である。この芳香剤1を製造するには、まず、図2（a）に示す工程において、所定の平均粒径及び粒度分布を有する生石灰の粒状物2・・・を準備する。

【0035】生石灰の粒状物2・・・の各々の平均粒径や粒度分布は、芳香剤1に使用する精油の成分、芳香剤1の使用目的、使用時間等によって決められる。例えば、香りを早期に拡散させるのが好ましい精油の場合には、生石灰の粒状物2・・・は、水と早期に反応して、早期に発熱するように、その粒径は、一般に、小さい方が好ましく（図2（a）中の右側図を参照）。また、香りを長い時間をかけてゆっくりと拡散させるのが好ましい精油の場合には、生石灰の粒状物2・・・の各々は、水とゆっくり反応して、発熱している時間が長くなるように、生石灰の各々の粒径2・・・は、一般に、大きい方が好ましい（図2（a）中の左側図を参照）。

【0036】また、香りを早期に拡散させ、その後は、香りを長い時間をかけてゆっくりと拡散させるのが好ましい精油の場合には、生石灰の粒状物2・・・の各々は、図2（a）中、右側図に示すような粒径の小さいものと、図2（a）中、左側図に示すような粒径の大きいものとが混在している方が好ましい。また、図2（b）に示すように、ケイ酸カルシウムのビーズ状の粒状物（この例では、直径が、4mm～5mmのものを用いている。）3・・・に、精油（例えば、カモミール油、ラベンダー油、レモン油、バラ油、ジャスミン油、ローズマリー油、ローズウッド油等の少なくとも1種）を含浸させたものを用意する。

【0037】この場合、精油を含浸させたケイ酸カルシウムの粒状物3・・・は、1種類の精油のみを含浸させたものであってもよく、また、予め、複数の精油を、所望の香りとなるようにブレンドしたものを含浸させるようにしたものであってもよい。また、精油を含浸させたケイ酸カルシウムの粒状物3・・・として、まず、ケイ酸カルシウムの粒状物に精油を1成分毎に含浸させた粒状物を用意し、次に、所望の香りになるように、精油の成分毎に含浸させた、ケイ酸カルシウムの粒状物をブレンドしたものであってもよい。

【0038】次に、生石灰の粒状物2・・・と、ケイ酸カルシウムのビーズ状の粒状物3・・・とを混合し、得られた混合物を、気孔を有する袋体4内に収容する（図3（a）を参照）。その後、図3（b）に示すように、袋体4内に収容した生石灰の粒状物2・・・と、ケイ酸カルシウムのビーズ状の粒状物3・・・との混合物が袋体4から漏れ出ないように、袋体4を閉じ、芳香剤1とする。

【0039】この例では、袋体4の材料として、不織紙

を用いている。このようにして製造された芳香剤1は、保存や運搬中に、香りが外に漏れ出さないようにするために、例えば、アルミニウム製の袋や、ラミネート製の袋や、ビニール袋等により密封し、化粧箱等に入れられて出荷される。次に、この芳香剤1の使用方法について例示的に説明する。

【0040】この芳香剤1の香りを楽しむ場合には、芳香剤1をビニール袋等から取り出して、図1に示すように、皿等の容器S上に載せる。次に、皿等の容器S上に載せた芳香剤1に、水wを垂らす。尚、水蒸気をより一層多く発生させる場合には、お湯を用いればよい。また、このような水（または、お湯）wの量は、ユーザまかせの適当であってよいが、このような水（または、お湯）wの量は、芳香剤1を濡らす程度で十分である。

【0041】例えば、水と反応して発熱する成分として、生石灰（CaO）を袋体4中に、5g程度～10g程度の範囲で収容させている場合には、水（又は、お湯）wの量は、10cc程度～20cc程度が、一つの目安になる。これは、あまり多くの量の水wを用いると、袋体4がビショビショになったり、袋体4が、水（又は、お湯）w中に完全に没してしまうと、袋体4内から香成分が、大気中に分散し難くなるからである。

【0042】芳香剤1に水wを垂らすと、水wは、布体4の気孔を通じて、袋体4内に浸透する。そして、袋体4内に浸透した水wが、粒状物2・・・に触れることで、粒状物2・・・が発熱し、この熱により、粒状物2・・・中に含浸させた香成分となる精油が気化する。

【0043】このようにして、気化した香成分となる精油が、袋体4の気孔を通して、外部に拡散していく。この芳香剤1では、香料源中に含まれる香成分となる精油を、水wと反応して発熱する成分を、水wに接触させることによって発生する熱を用いて気化するようにしているため、火災の虞れが一切無く、安全性に極めて優れている。

【0044】また、この芳香剤1は、水wに接触させれば、粒状物2・・・が発熱することで、水wの一部が水蒸気vになり、このようにして発生した水蒸気vが、袋体4の気孔を通して、大気中に拡散するので、このような水蒸気vを香りの煙に見立てて、視覚的に楽しむことができる。また、この芳香剤1では、香成分となる精油を粒状物3・・・中に含浸させることで、固形製剤化している。これにより、芳香剤1全体を固形製剤化できるので、この芳香剤1は、保存、運搬性に優れている。

【0045】更にまた、この芳香剤1は、トイレタリー商品としての芳香剤として、既に、市販されている、ありふれた錠剤等の形態にするのではなく、気孔を有する袋体4内に、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・と、香成分となる精油を含浸させた粒状物3・・・とを収容するという斬新な形態にしている。トイレタリー商品としての芳香剤とは、異なった印象を、顧客に

与えることができる。

【0046】ところで、この芳香剤1を子供等が、目にしないようにするために、芳香剤1に用いる生石灰の粒状物2・・・に色素成分を更に含ませてもよい。このような色素成分を含ませた場合には、芳香剤1を使用した後の袋体4に色が着く。したがって、使用後の芳香剤1の袋体4に、人が飲んだり食べたりしたくないような色（例えば、緑がかったクール色やピンク色の蛍光色等）をつけるようにすれば、使用後の芳香剤1を食品等と間違える虞れがなくなる。

【0047】また、精油を含浸させた粒状物3・・・を、複数の香成分となる精油の各々の成分毎に製造し、このようにして製造した粒状物3・・・の各々を、例えば、粒状物3・・・に含まれる香成分となる精油をイメージする色に着色するようにし、これらを袋体4内に収容するようにすれば、袋体4を介して、様々な色に着色された粒状物が、視覚を通じて把握される。

【0048】例えば、精油を1成分毎に含浸させたケイ酸カルシウムの粒状物3・・・を用いる場合には、ケイ酸カルシウムの粒状物に精油の成分毎に含浸させた粒状物を、各々の粒状物中に含まれる精油をイメージする色に着色するのが好ましい。このことをより具体的に説明すると、例えば、カモミール油は、成分中に、アズレン（セスキテルペン）を含んで、濃い青色をしているので、カモミール油を含浸させた粒状物は、青色に着色したり、ラベンダー油は、その基原植物が、紫青色の花を咲かせるので、ラベンダー油を含浸させた粒状物は、紫青色に着色したりする。

【0049】このようにすれば、この芳香剤1を使用するユーザーに、単に、香りを発生するだけの楽しみに留まらず、袋体4を介して、視覚を通じて把握される様々な色に着色された粒状物の色の各々を、香りのイメージと関連付けして、視覚的に楽しんでもらうことができる。また、この芳香剤1では、気孔を有する袋体4として、不織紙を使用しているので、使用済みの芳香剤1を廃棄を容易に行えるという効果もある。

【0050】尚、袋体4の材料は、不織紙に限られることなく、袋体4内に、香料源3・・・や、水と反応して発熱する成分2・・・を保持でき、且つ、袋体4に設けた気孔を通じて、水や気化した精油が袋体4を通過できるようになっているのであれば、特に限定されることなく、織布であってもよく、合成樹脂に複数の孔を開けたものであってもよい。

（発明の実施の形態2）図4は、本発明に係る芳香剤の他の一例を概略的に説明する一部切欠き斜視図である。

【0051】この芳香剤11は、香成分となる精油と、水と反応して発熱する成分との混合物の錠剤13と、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・とを、気孔を有する袋体4内に収容されて構成されている。この例では、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・とし

て、生石灰の粒状物を用いている。

【0052】また、錠剤13として、水と反応して発泡する成分の顆粒物に、香料源をスプレーしながら混練したものを圧縮成形した錠剤を用いている。より詳しく説明すると、錠剤13として、炭酸塩の粉末を所定の粒径に造粒した顆粒物に、有機酸と、香料源をスプレーしながら混練したものを圧縮成形した圧縮錠剤を用いている。

【0053】この例では、炭酸塩の粉末として炭酸水素ナトリウム粉末を用い、有機酸としてクエン酸を用い、圧縮成形により、直径が約1.4mmで、重さが約1.5g/錠剤のものを用いている。また、錠剤13としては、炭酸塩の粉末を所定の粒径に造粒した顆粒物に、有機酸と、香料源をスプレーしながら混練したものに、更に、炭酸水素ナトリウムの結晶粒子(約1mm³~約3mm³)を加え、これらを圧縮成形した圧縮錠剤を用いてもよい。

【0054】次に、この芳香剤11を製造する方法について説明する。図5及び図6は、芳香剤11の製造工程の一例を概略的に示す工程図である。この芳香剤11を製造するには、まず、図5(a)に示す工程において、所定の平均粒径及び粒度分布を有する生石灰の粒状物2・・・を準備する。生石灰の粒状物2・・・の各々の平均粒径や粒度分布は、発明の実施の形態1と同様、芳香剤11に使用する精油の成分、芳香剤11の使用目的、使用時間等によって決められる。

【0055】例えば、香りを早期に拡散させるのが好ましい精油の場合には、生石灰の粒状物2・・・は、水と早期に反応して、早期に発熱するように、その粒径は、一般に、小さい方が好ましく(図5(a)中の右側図を参照)。また、香りを長い時間をかけてゆっくりと拡散させるのが好ましい精油の場合には、生石灰の粒状物2・・・の各々は、水とゆっくり反応して、発熱している時間が長くなるように、生石灰の粒径は、一般に、大きい方が好ましい(図5(a)中の左側図を参照)。

【0056】また、香りを早期に拡散させ、その後は、香りを長い時間をかけてゆっくりと拡散させるのが好ましい精油の場合には、生石灰の粒状物2・・・の各々は、図5(a)中、右側図に示すような粒径の小さいものと、図5(a)中、左側図に示すような粒径の大きいものが混在している方が好ましい。また、図5(b)に示すように、水と反応して発泡する成分の顆粒物と、香料源との錠剤13を用意する。

【0057】この場合、錠剤13は、1種類の精油成分のみを香料源として含むものであってもよく、また、予め、複数の精油を予め、所望の香りとなるようにブレンドしたものを香料源として含むものであってもよい。また、この錠剤13は、水と反応して発泡する成分の顆粒物と、香料源との混練物を、圧縮成形によって製造する。

【0058】次に、生石灰の粒状物2・・・中に、錠剤13を混入し、これらを、気孔を有する袋体4内に収容する(図6(a)を参照)。その後、図6(b)に示すように、袋体4内に収容した生石灰の粒状物2・・・と錠剤13と、が袋体4から漏れ出さないように、袋体4を閉じ、芳香剤11とする。

【0059】この例でも、廃棄の際の便宜等を考慮して、袋体4の材料として、不織紙を用いている。このようにして製造された芳香剤11は、保存や運搬中に、香りが外に漏れ出さないようにするために、例えば、アルミニウム製の袋や、ラミネート製の袋や、ビニール袋等により密封し、化粧箱等に入れられた出荷される。

【0060】次に、この芳香剤11の使用方法について例示的に説明する。この芳香剤11の香りを楽しむ場合には、芳香剤11をビニール袋等から取り出して、図4に示すように、皿等の容器S上に載せる。次に、皿等の容器S上に載せた芳香剤11に、水(例えば、10cc程度)wを垂らす。

【0061】芳香剤11に水wを垂らすと、水wは、布体4の気孔を通じて、袋体4内に浸透する。そして、袋体4内に浸透した水wが、錠剤13に接触することで、錠剤13が発泡しながら崩壊し、これとともに、錠剤13中に含まれていた、香り成分となる精油が、錠剤13から放出される。

【0062】また、粒状物2・・・に触れることで、粒状物2・・・が発熱し、この熱により、錠剤13から放出された精油が、気化する。このようにして、気化した香成分となる精油が、袋体4の気孔を通して、外部に拡散していく。この芳香剤11では、香料源中に含まれる香成分となる精油を、水wと反応して発熱する成分を、水wに接触させることによって発生する熱を用いて気化するようにしているため、火災の虞れが一切無く、安全性に極めて優れている。

【0063】また、この芳香剤11は、水wに接触させれば、粒状物2・・・が発熱することで、水の一部が水蒸気vになり、このようにして発生した水蒸気vが、袋体4の気孔を通して、大気中に拡散するので、このような水蒸気vを香りの煙に見立てて、視覚的に、楽しむことができる。また、この芳香剤11では、香成分となる精油を、水と反応して発泡する成分とともに、錠剤化している。これにより、この芳香剤11に水を垂らすと、単に、香りが発生したり、水蒸気が発生したりするだけでなく、錠剤13を構成する水と反応して発泡する成分が、水と接触することで発泡し、このようにして発泡した泡が弾ける際に発生する音や、錠剤13が崩壊する際の音が発生するので、香りを嗅覚的に楽しんだり、発生する水蒸気vを煙に見立てて視覚的に楽しんだりすることができるのみならず、発泡した泡が弾ける際に発生する音や、錠剤が崩壊する際の音を聴覚的に楽しむことができる。

【0064】更に、このような音をより大きくさせるために、錠剤13中、又は、水と反応して発熱する成分2・・・中に、水溶性の糖類に炭酸ガスを吸収させた炭酸ガス含有粒状体（図示せず）を適当量、混入させるようにしてもよい。このような炭酸ガス含有粒状体は、例えば、以下に示すような方法によって製造することができる。

【0065】まず、水溶性の糖類として、蔗糖、マルトース、ぶどう糖等、または、これらの水溶性の糖類の少なくとも2種を含む混合物を加熱、溶解し、加圧下で炭酸ガスを接触吸収させ、その後、加圧下で冷却したものを、粉碎して製造することができる。この炭酸ガス含有粒状体（図示せず）は、水（お湯であってもよい。）に接触すると、水溶性の糖類が水に溶けることで、炭酸ガス含有粒状体（図示せず）中に、高圧で封入されていた炭酸ガスが、水溶性の糖類を破壊する際に、パチパチといったような音を発生する。

【0066】また、芳香剤11全体を固形錠剤化できるので、この芳香剤11は、保存、運搬性に優れている。更にまた、この芳香剤11は、トイレタリー商品としての芳香剤として、既に、市販されている、ありふれた錠剤等の形態にするのではなく、気孔を有する袋体4内に、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・と、香成分となる精油と、水と反応して発泡する成分との錠剤13とを収容するという斬新な形態にしているため、トイレタリー商品としての芳香剤とは、異なった印象を、顧客に与えることができる。

【0067】更にまた、芳香剤1と同様、芳香剤11を子供等が口にすることがないようにするために、芳香剤11に用いる生石灰の粒状物2・・・に色素成分を更に含ませてもよい。このような色素成分を含ませた場合には、使用後の芳香剤11の袋体4に、色が着く。

【0068】したがって、使用後の芳香剤11の袋体4に、人が飲んだり食べたりしたくないような色（例えば、緑がかったタール色やピンク色の蛍光色等）をつけるようにすれば、使用後の芳香剤11を食品等と間違える虞れがなくなる。また、精油と、水と反応して発泡する成分により構成される錠剤13を、複数の香成分となる精油の各々の成分毎に製造し、例えば、錠剤13中に含まれる香成分となる精油をイメージする色に着色するようにするのが好ましい。

【0069】このことをより具体的に説明すると、例えば、カモミール油は、成分中に、アズレン（セスキテルペン）を含んで、濃い青色をしているので、カモミール油を含む錠剤は、青色に着色したり、ラベンダー油は、その基原植物が、紫青色の花を咲かせるので、ラベンダー油を含む錠剤は、紫青色に着色したりする。このようにすれば、この芳香剤11を使用するユーザーに、単に、香りを発生するだけの楽しみに留まらず、袋体4を介して、視覚を通じて把握される様々な色に着色された

錠剤を、香りのイメージと関連付けして、視覚的に楽しむことができる。

【0070】また、この芳香剤11でも、気孔を有する袋体として、不織紙を使用しているので、使用済みの芳香剤11を廃棄を容易に行えるという効果もある。尚、袋体4の材料は、不織紙に限られることなく、袋体4内に、香料源や水と反応して発熱する成分を保持でき、且つ、袋体に設けた気孔を通じて、水や気化した精油が袋体を通してできるようになっているものであれば、特に限定されることなく、織布であってもよく、合成樹脂に複数の孔を開けたものであってもよい。

【0071】尚、この例では、袋体4内に、錠剤13を1個収容した例を示しているが、これは単なる例示であって、袋体4内に、錠剤13を2個以上入れるようにしてもよいことは、言うまでもない。

（発明の実施の形態3）図7は、本発明に係る芳香剤の他の一例を概略的に説明する一部切欠き斜視図である。

【0072】この芳香剤21は、香成分となる精油と水とを水密な袋体25内に収容し、この水密な袋体25の周囲に、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・を配置し、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・を気孔を有する袋体4内に収容して構成されている。この芳香剤21では、水密な袋体25内に、香成分となる精油と水とを収容し、この水密な袋体25の周囲に、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・を配置している。

【0073】これにより、この芳香剤21では、香りを楽しみたい場合には、水密な袋体25に孔を開けるだけでよく、わざわざ、水を持って来る必要がなくなる。即ち、水密な袋体25に、例えば、針等を用いて、孔を開ければ、水密な袋体25内に収容されている、香成分となる精油と水とが、孔を通じて、袋体25外へ漏れ出す。

【0074】そして、袋体25外へ漏れ出した水が、水密な袋体25の周囲に配置した、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・に接触し、これにより、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・が発熱する。そして、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・に、水が触れることで、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・が発熱し、この熱により、水密な袋体25の外に、水密な袋体25に形成した孔を通じて漏れ出た、香成分となる精油が、気化する。

【0075】このようにして、気化した香成分となる精油が、気孔を有する袋体4の気孔を通して、外部に拡散していく。この芳香剤21でも、香料源中に含まれる香成分となる精油を、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・を、水に接触させることによって発生する熱を用いて気化するようにしているため、火災の虞れが一切無く、安全性に極めて優れている。

【0076】また、水と反応して発熱する成分の粒状物

2・・・が、水と反応して発熱することで、水密な袋体25の孔より漏れ出た水の一部が水蒸気になるので、この蒸気を煙に見立てて、視覚的に楽しむことができる。また、この芳香剤21も、トイレタリー商品としての芳香剤として、既に、市販されている、ありふれた錠剤等の形態ではなく、気孔を有する袋体4内に、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・と、水と香成分となる精油とを収容した水密な袋体25とを収容するという斬新な形態にしているので、トイレタリー商品としての芳香剤とは、異なった印象を、顧客に与えることができる。

【0077】更に、この芳香剤21では、水密な袋体25内に予め水を収容し、芳香剤の香りを楽しみたい際には、水密な袋体25に孔を開けるだけで、芳香剤の香りを楽しめるようにしている。これにより、芳香剤の香りを楽しみたい際に、わざわざ水を用意する必要がないため、より簡単に、芳香剤の香りを楽しめるという効果もある。

【0078】更に、この芳香剤21では、水密な袋体25内に、香成分となる精油と水とを収容しているのので、水密な袋体25に孔を開けない限り、香りが発生することが無い。これにより、この芳香剤21は、非使用時には、香りが一切でず、水に接触させると香りが強くでるという特徴を有する、芳香剤を商品化できるという効果がある。

【0079】更にまた、芳香剤21を食品等と間違えないように、芳香剤1、11と同様、芳香剤21に用いる生石灰の粒状物2・・・に色素成分を更に含ませてもよい。更に、水密な袋体25の周囲に、水と反応して発泡する錠剤を配置するようにすれば、水密な袋体25に孔を開けることで、香りや水蒸気の他に、この錠剤が発泡し、発泡した泡が弾ける際の音や、錠剤が崩壊する際に発生する音を聴覚的に楽しむことができるようになる。

【0080】更に、このような音をより大きくさせるために、水と反応して発泡する錠剤中、又は、水と反応して発熱する成分2・・・中に、発明の実施の形態2中に示した、水溶性の糖類に炭酸ガスを吸収させた炭酸ガス含有粒状体(図示せず)を適当個、混入させるようにしてもよい。尚、発明の実施の形態3では、水密な袋体25内に、香り成分となる精油と水とを収容した例を示したが、本発明に係る芳香剤は、図7に示した、芳香剤21に限られることは無く、種々の変形例が考えられる。

【0081】例えば、そのような芳香剤として、水密な袋体25内に、水のみを収容し、水密な袋体25の周囲に、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・と、香り成分となる精油を含浸させた粒状物3・・・との混合物を配置し、これらを不織紙等の袋体4内に収容したものであってもよい。また、例えば、そのような芳香剤として、水密な袋体25内に、水のみを収容し、水密な袋体25の周囲に、香成分となる精油と水と反応して発泡

する成分との混合物の錠剤13と、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・とを配置し、水を収容した水密な袋体25、香成分となる精油と水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤13、及び水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・を気孔を有する袋体4内に収容したものであってもよい。

【0082】また、例えば、そのような芳香剤として、香成分となる精油と水とを水密な袋体25内に収容し、水密な袋体25の周囲に、水と反応して発熱する成分の粒状物2・・・を配置し、香成分となる精油と水とを水密な袋体25、及び、水と反応して発熱する成分の粒状物を気孔を有する袋体4内に収容したものであってもよい。

【0083】この芳香剤でも、香りを楽しみたいときには、水密な袋体4に孔を開ければよいので、一層容易に、香りを臭覚的に楽しむことができ、また、水蒸気を煙に見立てて、視覚的に楽しむことができる。以上、発明の実施の形態1、2及び3では、いずれも、気孔を有する袋体4内に、水と反応して発熱する成分と、香成分となる精油を含む香料源とを収容した芳香剤1、11、21について説明したが、これは、単に、本発明に係る芳香剤の好ましい例について説明したに過ぎず、本発明に係る芳香剤は、芳香剤1、11、21に示したものに限定されることはない。

【0084】例えば、本発明に係る芳香剤は、その最終形態を、既に市販されているトイレタリー商品と同様の形態、即ち、水と反応して発熱する成分の顆粒と、香成分となる精油を含浸させた顆粒とを混練したものを、圧縮成形により、1個の錠剤としたものや、水と反応して発熱する成分の顆粒と、香成分となる精油を含浸させた顆粒と、水と反応して発泡する成分の顆粒とを混練したものを、圧縮成形により、1個の錠剤としたものや、更には、香成分となる精油と水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤と、水と反応して発熱する成分の顆粒とを混練したものを、圧縮成形により、1個の錠剤としたものも、本発明に係る芳香剤に含まれる。

【0085】また、発明の実施の形態1で示した、芳香剤1の袋体4内に、発明の実施の形態2中に示した、炭酸ガス含有粒状体(図示せず)を適当個、入れるようにしてもよい。

【0086】

【発明の効果】以上、詳細に説明したように、本発明に係る芳香剤では、いずれも、香料源に含まれる香成分となる精油を、水と反応して発熱する成分を水に接触させることによって発生する熱を用いて気化するようにしているため、火災の虞れが一切無く、安全性に極めて優れている。

【0087】且つ、この芳香剤は、水に接触させれば、水と反応して発熱する成分が発熱することで、水蒸気が発生するため、そのような水蒸気を香りの煙に見立て

て、視覚的に、楽しむことができる。また、水と反応して発熱する成分として、固形で且つ安全性が高い生石灰を用いているので、この芳香剤は、取扱いの利便性に優れ且つ高い安全性を有する固形製剤として市場に供することができる。

【0088】また、香成分となる精油をケイ酸カルシウム中に含浸させることで、香料源を固形にすることで、本発明に係る芳香剤は、取扱の利便性に優れ且つ高い安全性を有する固形製剤として市場に供することができる。更に、本発明に係る芳香剤に、水と反応して発泡する成分を含ませれば、この芳香剤を水に接触させることで、泡が発生し、この泡が弾ける際に音が発生するため、単に、香りを楽しむことだけに留まらず、この泡が弾ける際の音を、聴覚的に、楽しむことができる。

【0089】更にまた、この芳香剤は、トイレタリー商品としての芳香剤として、既に、市販されている、ありふれた錠剤等の形態にするのではなく、気孔を有する袋体内に、水と反応して発熱する成分の粒状物と、香成分となる精油を含浸させた粒状物とを収容するという斬新な形態にすれば、トイレタリー商品としての芳香剤とは、異なった印象を、顧客に与えることができる。

【0090】更に、水密な袋体内に、香成分となる精油と水とを収容し、水密な袋体の周りに、水と反応して発熱する成分の粒状物を配置し、これらをともに気孔を有する袋体内に収容するようにすれば、香りを楽しみたい際には、水密な袋体に孔を開けるだけで、芳香剤の香りを楽しむことができる。同様に、水密な袋体内に、水を取容し、水密な袋体の周りに、水と反応して発熱する成分の粒状物と精油を含浸させた粒状物との混合物を配置し、これらをともに気孔を有する袋体内に収容したり、あ

るいは、水密な袋体内に、水を取容し、水密な袋体の周りに、水と反応して発熱する成分の粒状物と、香成分となる精油と、水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤とを配置し、これらをともに気孔を有する袋体内に収容すれば、香りを楽しみたい際には、水密な袋体に孔を開けるだけで、芳香剤の香りを楽しむことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る芳香剤の一例を概略的に説明する一部切欠き斜視図である。

【図2】本発明に係る芳香剤の製造工程の一例を概略的に示す工程図である。

【図3】本発明に係る芳香剤の製造工程の一例を概略的に示す工程図である。

【図4】本発明に係る芳香剤の他の一例を概略的に説明する一部切欠き斜視図である。

【図5】本発明に係る芳香剤の製造工程の一例を概略的に示す工程図である。

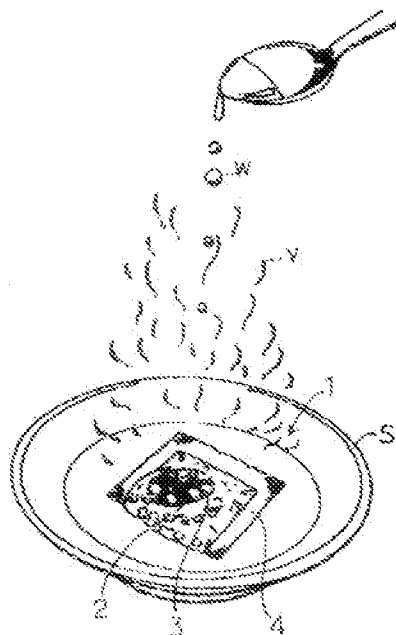
【図6】本発明に係る芳香剤の製造工程の一例を概略的に示す工程図である。

【図7】本発明に係る芳香剤の他の一例を概略的に説明する一部切欠き斜視図である。

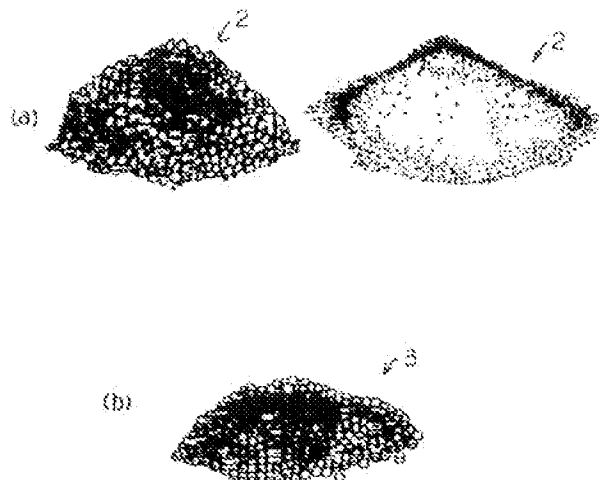
【符号の説明】

- 1、11、21 芳香剤
- 2 水と反応して発熱する成分の粒状物
- 3 香成分となる精油を含浸させた粒状物
- 4 気孔を有する袋体
- 13 香成分となる精油と、水と反応して発泡する成分との混合物の錠剤
- 25 水密な袋体

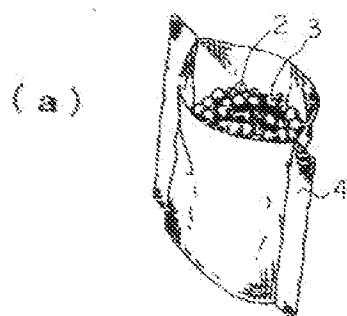
【図1】



【図2】



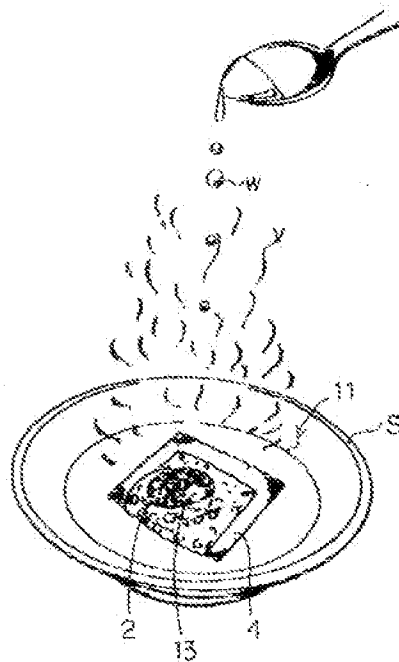
【図3】



(b)

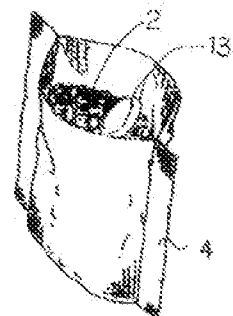


【図4】



(a)

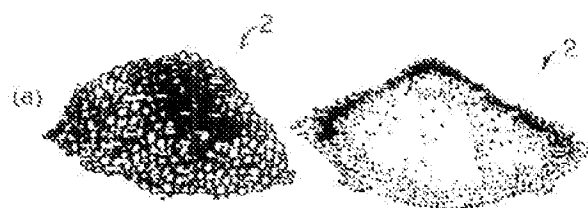
【図6】



(b)



【図5】



【図7】

